

# 「農あるまちづくり講座 in 日野市」活動報告

## ■オプション企画「平山まち歩きと芋ほり・焼き芋体験」

日 時 令和6年11月3日(日)

### ①平山城址公園駅ロータリー・平山季重居館跡

平安後期に平山を本領とし源氏に属して各地で活躍した武将、平山季重の居館跡を伝えるものとして、平山季重遺跡之碑と季重居館跡の碑が建てられました。居館跡は、後に季重を供養するために建てられた大福寺が建立されていました。



次の目的地、宗印寺に向かう途中に寄り道。通り沿いにあるお宅の直売所で新鮮野菜を買われた方もいらっしゃいました。また学校給食に提供する黒米の粳摺りを見学させていただきました。



### ③宗印寺

平山を一望する丘陵の麓にある曹洞宗大沢山宗印寺。大福寺から移された平山季重の墓があります。





#### ④平山用水路

浅川から取水され、丘陵からの湧き水を集めながら浅川に沿って広がっていた水田を潤していました。現在この水を使用している水田はありません。よ〜く見るとシジミが生息していました。



#### ⑥芋ほり体験

今回の案内役、JA 東京みなみの小林和男代表理事組合長の畑での芋ほり体験。今年の出来はあまりよくないとお話でしたが、たくさんのさつまいもを掘ることができました！



#### ⑦平山八幡神社

平山季重が鎌倉の鶴岡八幡宮を勧誘して郷中の鎮守としたとの言い伝えがあります。天正 18 年(1590)徳川家康が関東へ入国し領国を巡視した時、「軍配団扇」を寄進したとも伝えられています。現在この「軍配団扇」は、これを納めていたと思われる「袱紗(ふくさ)」、「至道無難墨蹟(ぼくせき)」と共に日野市指定有形文化財に指定されており、同社の社宝となっています。



歩いている途中にあった畑にたくさん落ちていた土器の破片。たくさん出てくるそうです。





## ⑩鮫陵源（こうりょうげん）跡

東京都住宅供給公社平山住宅。この場所には戦前、昭和 11 年から 18 年にかけて、今でいうならばアミューズメントパーク、遊園地と料亭、そして湧水を利用した養魚場と釣堀を組み合わせた「鮫陵園」がありました。中央にある公園はかつての弁天池の跡。小林組合長は子供の頃に遊びに来ていたそうで、当時の様子を聞く事ができました。



## ⑪コバサン農園

小林組合長の農園でふかしていただいたさつまいもを食べながら、自己紹介をしたりして休憩をとりました。お芋は甘くて美味しかったです！



## ⑫大名淵・浅川土手桜並木

平山橋を渡り、浅川土手桜並木を歩いて平山城址公園駅へ戻ってきて解散となりました。



予定していた 11/2(土)が雨で翌日に延期となり、参加者が少なくなってしまったのは残念でしたが、当日は暖かく天気に恵まれてまち歩き日和となりました。

日野市の中でも多くの農地が点在している平山地域を、地元詳しい小林組合長の案内でのまち歩きはとても有意義で楽しい時間となりました。

## ■第1回 日野市都市農業振興プランと学校給食・体験農園

日時 令和6年11月12日(火) 19:00~20:30

講師 青木奈保子氏(日野市産業スポーツ部 部長)

小林和男氏(JA東京みなみ 代表理事組合長)

### 講義内容

青木奈保子氏より、日野市が発行している「第4次日野市農業振興プラン・前期アクションプラン」の冊子を基に、日野市の農業の現状と課題、農業振興に向けた目標、目標実現に向けた5年間のアクションプランについての説明。

小林和男氏より、「地域の農業で生きる ~私達の活動~」をテーマに、日野市で農業をしている小林氏が生産している農産物やその生産方法を、今までの苦労や大変さを交えながら紹介。力を入れている活動である、「学童農園」や「学校給食への地元野菜提供」についてのお話もありました。





## ■第2回 食料・農業・農村基本法改正と環境・都市農業

日 時 令和6年11月26日(火) 19:00~20:30

講 師 蔦屋栄一氏(農的社会デザイン研究所 代表)

### 講義内容

講師の蔦屋栄一氏より、下記構成内容での講座が行われました。

- ・日本農業の概況 ~崖っぷちにある日本農業~
- ・改正食料・農業・農村基本法 ~ひらけない展望~
- ・環境問題、特にみどりの食料システム戦略 ~失われた30年~
- ・種子法、種苗法 ~種まで奪う貿易自由化~
- ・食品衛生法 ~管理社会が奪っていくふるさとの味~
- ・都市農業、都市農地 ~日本農業再生のかぎを握る都市農地保全~

講座終了後の質疑応答では、日本農業の強みとは何か、これからの農業政策とくに所得補償について、食料自給率は上げるにはどうすべきか、など多くの質問があがりました。



### ■第3回 かつて日野は田んぼが広がる豊かな村だった

日時 令和6年12月10日（火）19:00~20:30

講師 上野さだ子氏（日野の古文書を読む会 会長）

講義内容 【日野市はすごい歴史がいっぱい！】

七ツ塚遺跡では、100軒を超える住居跡が発見されたり、祭祀などに使われていたと思われる土器や石器などがたくさん出土している事からも、日野市は旧石器・縄文時代から現在まで人が住み続けている豊かな土地であるといえます。そんな日野市の歴史やその当時の様子を、時代ごとに、絵や写真などを使いながら沢山のお話しを伺えました。

米どころの日野に江戸末期、米を搗く水車が作られ、明治になると村人がお金を持ち寄り小規模な共有水車が多く作られました。昭和25年頃まで使われていましたが、電気の普及などにより終焉を迎えました。その水車を復元した向島用水路の水車小屋を主なフィールドにして活動している「日野の水車活用プロジェクト」。現在、共に活動されたい方々を募集しているとの事でしたので、ご興味ある方はぜひ参加してみたいかがでしょうか。



日野の水車活用プロジェクト  
水車って面白い！水車って楽しい！水車っておもしろい！  
はる なつ あき 秋  
水車はコットンコットンまわっています。  
水車はコットンコットンお粥をつきます。  
水車はコットンコットン打ちをげます。  
水車のはたらきを覚えてきてください。  
水車からさらさら流れる用水のほとりて  
季節の日に遊ばせながら  
未来のきれいな工場のこと  
想像してみよう！

日野の水車活用プロジェクト  
連絡・お問合せ / 日野の水車活用プロジェクト tel: 042-594-3739 (代表/市田啓介)  
定例会 / 毎月第2土曜日13時30分から mail: sukesan@com.zaq.ne.jp  
定例会場所 / 環境情報センター（かわせみ園）日野市日野本町1-6-3  
※平日午後6時30分までには参加が可能です。



講師 井上博司氏（カメラマン・みずとくらす日野）

講義内容 【かつて日野は田んぼが広がる豊かな村だった】

日野市は、かつて「多摩の米蔵」と言われ古くから水田が広がっていた農業と稲作の街ですが、昭和23（1948）年には390haあった水田は、平成27（2015）年には10haとなっています。講義では、日野用水開削450周年に制作された映像や、井上氏が撮影した写真や所有されている写真を使って、水田が減っていく風景の変化や日野市内各所の「昔と今」を見せて頂きました。水田が減った原因には、減反政策の他にもカドミウム汚染の影響もあったとのことには驚きでした。現在の残っている田んぼは、小学生や外国の方などの農業体験の場として利用されたりするそうです。



今回の講義では、沢山の写真と共に日野市の歴史に触れる事ができ新たな発見がありました。